

経済産業省 令和8年度ヘルスケア産業基盤高度化推進事業
(地域におけるヘルスケア産業推進事業)

オレンジイノベーション・プロジェクト
～認知症当事者をつくる、誰もが生きやすい社会～
公募説明会

2026年6月5日

経済産業省 ヘルスケア産業課

株式会社日本総合研究所

1. 経済産業省 ヘルスケア産業課 ご挨拶
2. オレンジイノベーション・プロジェクトの取組のご紹介
3. 令和8年度の公募概要のご紹介
4. 質疑応答

【注】令和8年度の公募要領及び提案様式を本日より株式会社日本総合研究所のHP (https://www.jri.co.jp/seminar/260601_704/detail/) にて公開しております。Zoomウェビナーのチャット上に、HPのリンクを掲載しておりますので、適宜ご参照ください。

オレンジイノベーション・プロジェクト の取組のご紹介

オレンジイノベーション・プロジェクトとは

- ・ 経済産業省では、認知症の人が企業の開発プロセスに「参画」し、企業とともに新しい価値を生み出す「共創」を行う「当事者参画型開発（＝オレンジイノベーション・プロジェクト）」を推進。
- ・ 本取組の目的は、共生社会の実現に資する質の高いソリューションが創出される仕組みの構築。

当事者参画型開発の取組み



本取組における「当事者参画」、「参画」、「開発」の定義・考え方

- ・ 本取組における「当事者参画」とは、「製品やサービスに対するニーズをもつ **認知症の人自身が、協力の意思を持って、**それらの製品・サービスの開発プロセス（企画、実施、評価等）に『参画』すること」と定義する。
- ・ **認知症の人の主体的な協力意思を伴わない、一方的な観察や意見聴取は「当事者参画」とは言えない。**
- ・ 「認知症の人のニーズを反映した製品・サービス」であること条件として、認知症の人の意見が製品・サービスの「コアあるいはそれに近い部分」への反映を意図したものである必要がある。
- ・ ここでの「**開発**」は**新しい製品・サービスの創出だけでなく、既存の製品・サービスを認知症の人の意見をもとに改良することも含む。**

企業・団体等の参画状況

- 本プロジェクトは、令和2年度に検討を開始し、認知症の人とともに生活課題の解決ややりたいことの実現に資する製品・サービスの開発に取り組む企業・団体を対象とした開発の支援を継続的に実施。
- 令和7年度は、58の企業・団体を採択した（令和2～4年度：5社⇒令和5年度：20社⇒令和6年度：46社）。
※外部有識者からなる審査会（非公開）において採択可否を検討

令和7年度 オレンジイノベーション・プロジェクト 実践企業・団体（58企業・団体）



出所：経済産業省「オレンジイノベーション・プロジェクト 特設ウェブサイト」 <https://www.dementia-pr.com/>

開発している製品・サービスの例



- スケジュール管理を支援する
分かりやすいデザインの
「日めくりカレンダーアプリ yottey(ヨッテイ)」



- 10万円以下の紙幣の引出しのためのシンプルな機能を持ち、操作に迷わない・間違えにくく、どなたでもスムーズに利用可能なATM「ホックタッチ」



- 紙の日めくりカレンダーをデジタルで再現し、日付と曜日表示をメインとしたデジタル日めくりカレンダー。



- 手を使わずに立ったまま履ける「スパットシューズ」



- 「慣れ親しんだガス火調理をいつまでもシニア世代向けガスコンロ SAFULL+ (セーフルプラス) 視覚的な分かりやすさのためにカラーリング、デザイン等を工夫。



- 1人暮らしの高齢者が使用する電気ポットを通じて、離れて暮らすご家族がポットの使用状況を知ること
で安否を確認するサービス



- いつでもどこでもメモができ、自然に目に入って思い
出せる、手首に巻きつけて“身につけるメモ帳”
「wemo」



- 認知症の人の行動とその背景を知ることが
できる体験型VRトレーニングプログラム
「FACEDUO (フェイスデュオ)」



- 誰でも簡単に使える腕時計型の徒歩用ナビ
「ツギココ」



- 誰もが誰でも開閉/着脱が出来るファスナー



- 動画を見ながら誰もが楽しくクラフトキット
をつくることのできる「オンデマンドくらふと」



- 日々のできごとを写真とセットで記入して、記憶を手帳に記録する形で保持する「おぼえている手帳」



- 「認知症の方も安心して楽しめる！日帰りバスツアー」

momote



- 誰でも、いくつになっても、
使いやすい・続けやすい高保湿スキンケア
「momote (モモテ)」



- 思い出の写真と楽しい会話でふたたび輝く
「TEKODEKO RECOLLECTION 人生まるごと
回想アルバム」

パートナー団体の拡大

- 日本認知症本人WG、認知症の人と家族の会、厚生労働省と連携し、開発に参画する認知症の人の募集にご協力いただくパートナー団体（自治体、介護事業者、医療機関、当事者団体）等の拡大に向けた取組を実施。
- 令和6年度以降、認知症の人811名、家族・支援者等507名の計1,318名が開発活動に参画。

※令和6年4月から令和8年3月末時点までの実績値、延べ人数

近畿
認知症の人188名
家族・支援者等57名

自治体

- 京都府
- 兵庫県太子町
- 三重県四日市市

介護事業者

- 特別養護老人ホーム 六甲の館
- 北区在宅デイサービスセンター かみやま倶楽部
- 有限会社アルサ会 おもいで郷

医療機関

- 京都府こころのケアセンター
若年性認知症支援チームおれんじブリッジ
- 社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会千里病院

当事者団体等

- 地域共生開発機構 ともつく
- レイの会
- NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター
- ひょうご認知症希望大使活動パートナー
- 特定非営利活動法人四日市Dサポート
- 若年性認知症本人交流会おれんじサロンひと・まち
(社会福祉法人京都市社会福祉協議会 京都市長寿すこやかセンター運営)

自治体

- 鳥取県鳥取市

自治体

- 福岡県福岡市
- 福岡県宗像市
- 大分県

介護事業者

- ケアグループなでしこ
- 社会福祉法人水光会
しらぬい荘デイサービスセンター

中国
認知症の人39名
家族・支援者等18名

九州
認知症の人28名
家族・支援者等24名

当事者団体等

- JDWG
- 認知症の人と家族の会

北陸・東北
認知症の人31名
家族・支援者等15名

自治体

- 山形県天童市
- 新潟県三条市

介護事業者

- 福井県民生活協同組合（福井市5拠点）

当事者団体等

- NPO法人ニット

関東
認知症の人345名
家族・支援者等261名

自治体

- 静岡県三島市

医療機関

- 国立長寿医療研究センター

当事者団体等

- 一般社団法人ポーダレス

東海
認知症の人10名
家族・支援者等10名

自治体

- 東京都品川区、八王子市、日の出町
- 埼玉県さいたま市
- 神奈川県
- 神奈川県大和市、横須賀市

介護事業者

- 有限会社ハピア オレンジカフェハハハ
- 100BLG株式会社
- NPO法人シニアライフセラピー研究所『亀吉』
- 社会福祉法人池上長寿園
大田区若年性認知症支援相談窓口
- 社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑
- HYS Space

障害福祉事業者

- 社会福祉法人東京コロニー 東京都大田福祉工場

医療機関

- 東京医科大学病院 認知症カフェ「認茶屋」
- オレンジほっとクリニック

当事者団体等

- NPO法人マイway
- リンカフェ
- さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター
- わすれな草の会
- 一般社団法人ユニオン
- 一般社団法人Dフレンズ町田
- ミモザ
(東京都武蔵野市の若年性認知症の仲間と家族の交流の会)
- NPO法人いきいき福祉ネットワークセンター

出所：株式会社平凡社地図出版 / ROOTS製作委員会

開発事例：株式会社大醐

- 株式会社大醐では、「迷わず履ける靴下 Unicks」について認知症の人とともに改良中。令和7年度の体験会・ヒアリングには認知症の人11名、家族・支援者等2名が参画。
- 誰もが自分らしく一步を踏み出せる社会を目指している。



Unicks
アクリル×ウールで足元ぽかぽか
迷わず履ける 暖かい靴下



Unicks
よく伸びて、柔らかい
迷わず履ける 普通の靴下



Unicks
どんな人でも迷わず履ける
薄手の靴下

株式会社大醐の実践

2年前に実施した当事者参画型開発において、当事者の方々からいただいたご意見をもとに改良を重ねてきました。

今年度の取組みでは、改良版の「Unicks」を実際にお試しいただきました。

靴下の厚さは「暖かい」「普通」「薄手」の3種類に拡充し、そのうち「普通」タイプをご試着いただきました。また、改良前と同様に豊富なカラーバリエーションを取り揃えています。



Unicks
かかたがないから“迷わず履ける”

【改良に向けたご意見】

- 履き続けたあとの履き口のゆるみや耐久性がどうなるか気になる
- ビジネスソックス、ハイソックスくらいの長さがあるとよい
- 義足、義手の方にもニーズがあると思う
- 靴下全般について、似たような靴下がいくつもあるためペアを探すのが大変

実践でのご意見を踏まえた改良方針（2026年3月時点）

- 今年度の実践では、認知症ではない人にも試着いただく機会があったほか、メディアを通じて認知症の人以外からの反響も得られた。仕様面における継続的な改善を図りつつ、義足・義手の人や視覚に障がいのある人、知的障がいのある方などのニーズも踏まえ、活用シーンや販路の拡大に加え、サイズを問わず着用できる特性から、防災時の支援物資としての活用可能性についても検討を進めていきたい。

開発事例：株式会社チヨダ

- 株式会社チヨダでは、手を使わずに立ったままスパット履ける「スパットシューズ」について、認知症の人とともに開発。令和7年度の体験会・ヒアリングには認知症の人3名、家族・支援者等3名が参画。
- 認知症の人も含めすべての人が日常を快適に過ごせるような商品づくりを目指している。

biofitter
スパットシューズ

手を使わずに立ったままスパット履ける!



特許第7317385号
*標記品にご注意下さい



①



履き口が目立つ
カラーリング

②



名前や目印が入る
透明ポケット

③



突起をもうけて
脱ぎやすい設計

株式会社チヨダの実践



【改良に向けたご意見（例）】

- ①履き口を目立つようにしてほしい
- ②他の人の靴と間違えないようにしたい
- ③履きやすいけど脱ぎにくい



実践でのご意見を踏まえた改良方針（2026年3月時点）

- ①履き口が分かりやすいカラーリング
- ②名前や目印が入る透明ポケットを搭載
- ③脱ぎやすい設計に改良

共創を実践した企業からの声

- 企業からは認知症の人の開発プロセスへの参画を通じて新しい視点に気づくとともに、効率的・効果的な開発の実践につながったとの声が多く寄せられた。

プロジェクト参画による効果	企業からの具体的な声
<p>効率的・効果的な開発の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個社ではアプローチが難しかった認知症の人の協力を得られたことでスピード感を持った開発を進められた。 ターゲットをどこに置くかを検討するうえで、認知症の人や支援者、家族とつながり、直接さまざまな意見を聞くことができたことで、よりユーザー目線で開発を進めることにつながった。 共創を通じて得たヒントが誰もが使いやすい製品・サービスの開発につながっている。
<p>新たなネットワークの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信イベントを通じて、認知症の人に加えて、家族や支援者等と出会う機会が得られたため、新たなネットワークの構築につながった。
<p>認知症や認知症の人に対する理解促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人との対話を通じて、自分たちの思い込みを取り払うことができ、新たな視点の気づきにつながった。
<p>メディア等への露出による認知拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> メディア露出等が増え、認知拡大につながった。

認知症の人とともに過ごす介護事業所に訪問しての体験型研修の様子



実践の様子



オレンジノベーション・プロジェクトに関する情報発信（1/2）

- 本取組の市民向け普及啓発および企業のPR等を目的として、日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局（経済産業省）主催の情報発信イベントを全国で開催した。

京都劇場
令和7年9月19日(金)

主催：一般社団法人司延子モダンバレエ
後援：京都市

大和市文化創造拠点シリウス
令和7年9月25日(木)

共催：大和市
後援：神奈川県

さいたま市生涯学習総合センター
令和8年1月24日(土)

主催：埼玉大学・さいたま市・国立大学協会
後援：埼玉県・埼玉県立大学 等

オレンジノベーション・プロジェクトに関する情報発信（2 / 2）

- 本取組の市民向け普及啓発および企業のPR等を目的として、2月25日-27日には「Care Show Japan」に出展。
- 加えて、周知用コンテンツの整備も実施した。

東京ビッグサイト 東ホール

令和8年2月25日（水）-27日（金）

Care Show Japan

超高齢社会の介護・医療・予防と、まちづくりのために

Care Show Japan / ケアショー・ジャパンは

介護や医療、ヘルスケアに関連する4つの展示会で構成されるBtoB展示会です。

新製品・サービスの展示、最新情報を紹介する講演プログラム等で

来場者の皆様に価値ある場・情報を提供し、

超高齢社会における地域課題、社会課題の解決を目指します。

International KAIGO Festival が同時開催！



International
KAIGO Festival 2026

Care Show Japanは、経済産業省の下記プロジェクトの趣旨に賛同し、その活動を支援します。

「OPEN CARE PROJECT」～介護を「個人の課題」から「みんなの話題」へ～

「オレンジノベーション・プロジェクト」～認知症当事者をつくる、誰もが生きやすい社会へ～



周知用コンテンツ

プロジェクト概要ポスター



採択企業ロゴ一覧ポスター



プロジェクトチラシ



ORANGE INNOVATION PROJECT

～認知症当事者をつくる、誰もが生きやすい社会～

オレンジノベーション・プロジェクトHP



オレンジノベーション・プロジェクトコンセプトムービー



みまもりあいアプリ
オレンジノベーション・チャンネル



サイト一覧ポスター

プロジェクト
コンセプトムービー

コンテンツ配布ページ
（経産省HP）

流通・販売に関する取組の実施

- ・イオンリテール株式会社が2026年2月に開設した「MySCUEマーケットプレイス」において、本プロジェクト参画企業の製品・サービスの周知・販売中。また、本プロジェクトから生まれた製品・サービスの販売に活用可能な「タグ」について1月より各採択企業での利用を正式に開始した。
- ・今後も流通・販売にご協力いただける企業・団体とともに販路開拓を図る予定。

MySCUEマーケットプレイス



タグ



※株式会社イトーヨーカ堂の協力のもと作成

実現したい社会像および必要な事項

- 本プロジェクトによって実現したい「社会像」およびその「社会像の実現に向けて必要なこと」の取りまとめを一昨年度実施。
- 本整理を念頭に、具体的な取組を進めていく予定。

オレンジノベーション・プロジェクトによって実現したい社会像

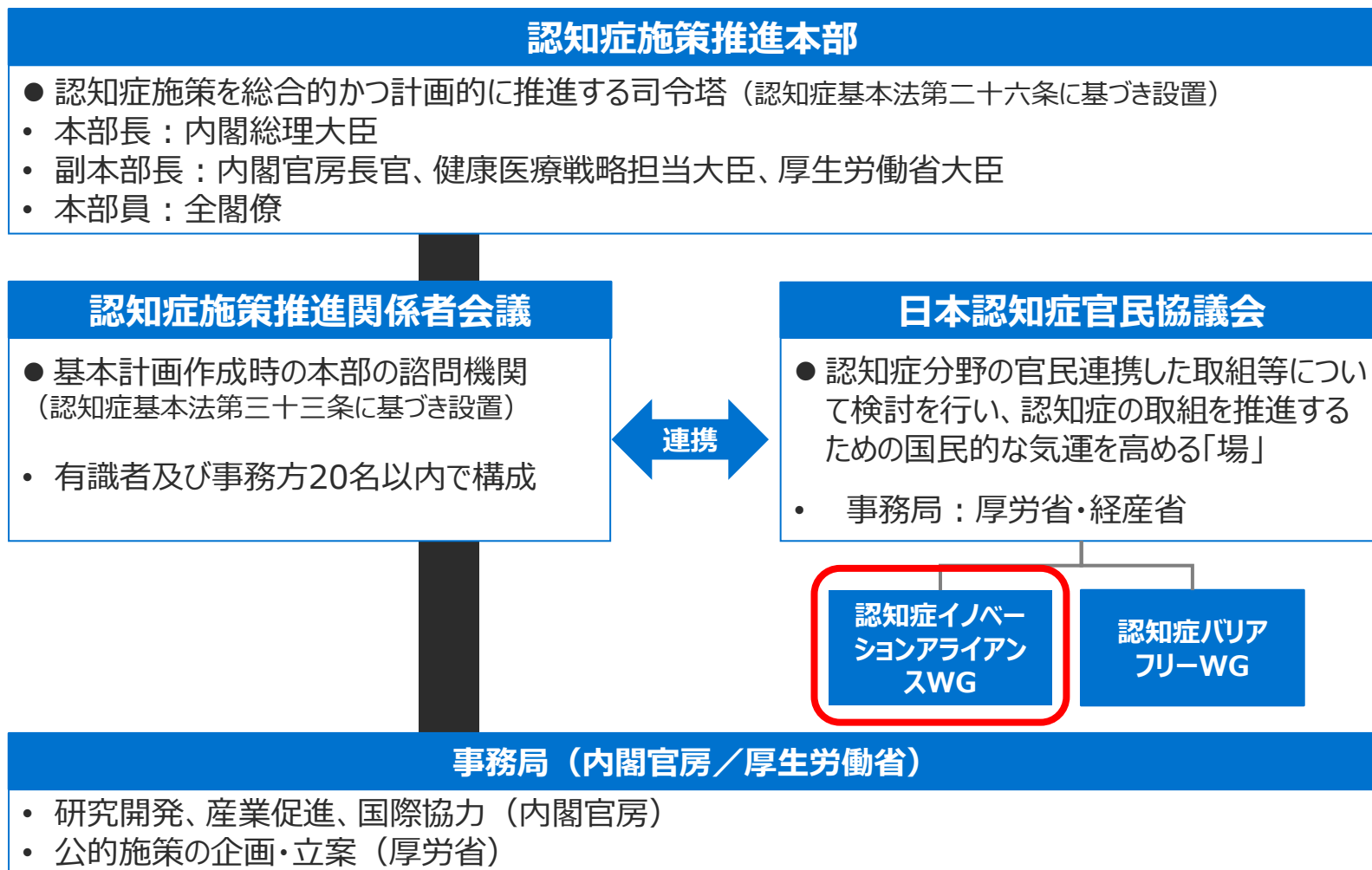
認知症の人のニーズや経験を反映した製品・サービスが身近にあり、
誰もが、自分の力や個性を活かしながら、大切にしたい暮らしを続けることができる社会

上記の社会像の実現のための必要な事項

- ① 多様な認知症の人が企業の開発に安心して参画し、声や思いを伝えることができること
- ② さまざまな地域で当事者参画型開発が実践されており、多くの認知症の人が開発に参画する機会があること
- ③ 認知症の人と企業の関係が「単発のもの（＝聞きっぱなし）」ではなく、適切なフィードバックが行われる「継続的なもの」であること
- ④ 認知症の人やその家族等の日々の生活に関わる多様な企業が当事者参画型開発を行っていること
- ⑤ 認知症の人とともに開発した製品・サービスにより、企業が十分な収益を上げることができていること
- ⑥ 自分にあった製品・サービスを認知症の人やその家族等が日々の生活の中で気軽に購入・利用することができること

【参考】政府における認知症施策の推進体制、本プロジェクトの位置づけ

- 日本認知症官民協議会のもと、経産省主導で産業創出を図る認知症イノベーションアライアンスWG、厚労省主導で官民での「バリアフリー対応」の具現化を目指す認知症バリアフリーWGが連携しながら、それぞれ取組が進められている。
- 本取組は認知症イノベーションアライアンスWGの取組として実施。



【参考】認知症施策推進基本計画における位置づけ

- 令和6年12月3日に閣議決定された「認知症施策推進基本計画」において、認知症の人と家族等が企業の開発活動に参画することについて、基本的施策および重点目標の一部として盛り込まれている。

【重点目標3】

認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすことができること

Ⅲ 基本的施策

2. 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進

(4) 認知症の人にとって利用しやすい製品・サービスの開発・普及の促進

日本認知症官民協議会による官民連携の下、**認知症の人と家族等が参画した、認知症の人が地域で生活する上で利用しやすい製品・サービスの開発・普及を促進する**ため、モデル的取組を好事例として展開し、そうした取組が自主的、継続的に進むよう取り組む。

プロセス指標	アウトプット指標	アウトカム指標
<ul style="list-style-type: none"> ・部署横断的に認知症施策の検討を実施している地方公共団体の数 ・認知症の人と家族等が参画して認知症施策の計画を策定し、その計画に達成すべき目標及びKPIを設定している地方公共団体の数 ・医療・介護従事者に対して実施している認知症対応力向上研修の受講者数 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援も含めて個別の相談・支援を実施していることを明示した認知症地域支援推進員や若年性認知症支援コーディネーターを設置している地方公共団体の数 ・認知症バリアフリー宣言を行っている事業者の数 ・製品・サービスの開発に参画している認知症の人と家族等の人数 ・基本法の趣旨を踏まえた認知症ケアパスの作成・更新・周知を行っている市町村の数 ・認知症疾患医療センターにおける認知症関連疾患の鑑別診断件数 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいると感じている認知症の人の割合 ・地域で役割を果たしていると感じている認知症の人の割合 ・認知症の人が自分らしく暮らせると考えている認知症の人及び国民の割合 ・認知症の人の希望に沿った、保健医療サービス及び福祉サービスを受けていると感じている認知症の人の割合

出所：「認知症施策推進基本計画」（令和6年12月3日閣議決定）p10、24より抜粋

令和 8 年度の公募概要のご紹介

公募の概要（1 / 2）

- 「当事者参画型開発」を実践する企業・団体の公募を令和8年6月1日（月）～26日（金）に実施する。
- 対象、テーマ等は以下の通り。

対象	「当事者参画型開発」の手法を用いて、以下の開発（検討中を含む）に取り組む企業・団体 <ul style="list-style-type: none">● 認知症の人の生活課題の解決に資する製品・サービス● 認知症の人の「やりたいこと」の実現に資する製品・サービス
公募時期	• 令和8年6月1日（月）～6月26日（金）17：00必着
想定される テーマ	• 買い物、移動・交通、金融・財産管理、労働（就労・社会参画）、更衣・身だしなみ、調理・食事、掃除・洗濯、入浴・排泄、交流、趣味、学び、通院・通所、服薬、その他の生活課題等
開発に 参画する方	• 認知症の人 <ul style="list-style-type: none">➢ 本公募においては、「認知機能の低下により日常生活に支障が生じている方」を指します。➢ 認知症の確定診断の有無は問わず、軽度認知障害（MCI）、軽度～中等度認知症、重度認知症、若年性認知症の方を含みます。 • 家族等 <ul style="list-style-type: none">➢ 本公募においては、「認知症の人に対する支援のみならず、その家族その他認知症の人と日常生活において密接な関係を有する者」を指します。 <p>※本事業では認知症の人の目線での開発を重視しているため、家族等の参画のみを想定した企画は対象外となります。 家族等が参画する場合も、必ず認知症の人の意見を聞くようしてください。</p>

公募の概要（2 / 2）

- 本事業における「当事者参画」、「開発」の定義・考え方は以下の通り。
- 「開発」は「新しい製品・サービスの創出だけでなく、既存の製品・サービスを認知症の人の意見をもとに改良することも含む。」と定義している。

本取組における「当事者参画」、「参画」、「開発」の定義・考え方

- 本取組における「当事者参画」とは、「製品やサービスに対するニーズをもつ**認知症の人自身が、協力の意思を持って、**それらの製品・サービスの開発プロセス（企画、実施、評価等）に『参画』すること」と定義する。
- **認知症の人の主体的な協力意思を伴わない、一方的な観察や意見聴取は「当事者参画」とは言えない。**
- 「認知症の人のニーズを反映した製品・サービス」であることの条件として、認知症の人の意見が製品・サービスの「コアあるいはそれに近い部分」への反映を意図したものである必要がある。
- ここでの**「開発」は新しい製品・サービスの創出だけでなく、既存の製品・サービスを認知症の人の意見をもとに改良することも含む。**

実践企業への支援内容（1 / 2）

- ・ 採択された実践企業への支援内容は以下の通り。実践企業は、支援内容のうち、自社の製品・サービスの開発フェーズに応じて希望する支援内容を選択して応募することが可能。

— なお、支援内容はいずれも現時点での想定であり、今後の協議状況等に応じて一部変更となる可能性がある。

① 認知症の人及び家族等の紹介やマッチング、共創の実践の支援

- ・ 当事者参画型開発の実践にあたり、パートナー団体と連携し、開発に参画する認知症の人及び家族等の紹介やマッチングを行います。なお、具体的には、大きく以下2つを想定しています。
 - ✓ 認知症の人及び家族等が集まる場において、実践企業が製品・サービス・アイデア等を紹介するとともに、意見や開発への参画者を募る機会を提供
 - ✓ 実践企業の希望する対象者像を踏まえた、認知症の人との個別のマッチング・意見交換機会の提供
- ・ また、必要に応じて、専門職や外部専門家の紹介、当事者参画型開発の進め方に関する助言等の支援を行います。

② 製品・サービスの展開に向けた流通・販売候補先等との交流機会の提供

- ・ 当事者参画型開発を通じて開発された製品・サービスについて、流通・販売事業者等との接点を構築するための機会を設ける予定です。
- ・ なお、この支援は、認知症の人の声にもとづき開発された製品・サービスのみを対象とします。

③ 認知症及び認知症の人に関する学びの機会、交流の機会の提供

- ・ 認知症の人と開発を行う際の留意点や心構え等に関する講座（座学形式・ワークショップ等）を8月初旬頃に開催予定です。

実践企業への支援内容（2 / 2）

- ・ 前項の続き。

④自治体・団体等や企業同士、有識者・メンタリング企業とのネットワーク構築の支援

- ・ 事業期間内に、自治体・団体等や企業同士のネットワーク構築に向けた情報交換会等を実施予定です。
- ・ また、必要に応じて、当事者参画型開発に関する知見を有するアカデミアの有識者、事業開発に知見を有し伴走支援を行うメンタリング企業等との交流機会等を設ける予定です。

⑤経済産業省事業としての情報発信・プロモーションの支援

- ・ 事業期間内において、協力自治体等におけるPRイベント、実践企業間や認知症の人及び家族等との交流イベント、実践企業への取材及び記事化等の情報発信の実施を想定しています。事務局より、各種情報発信機会への参加希望の確認や対応を依頼する可能性があります。

⑥認知症の人及び家族等の生活課題・未充足ニーズ等の調査機会の提供

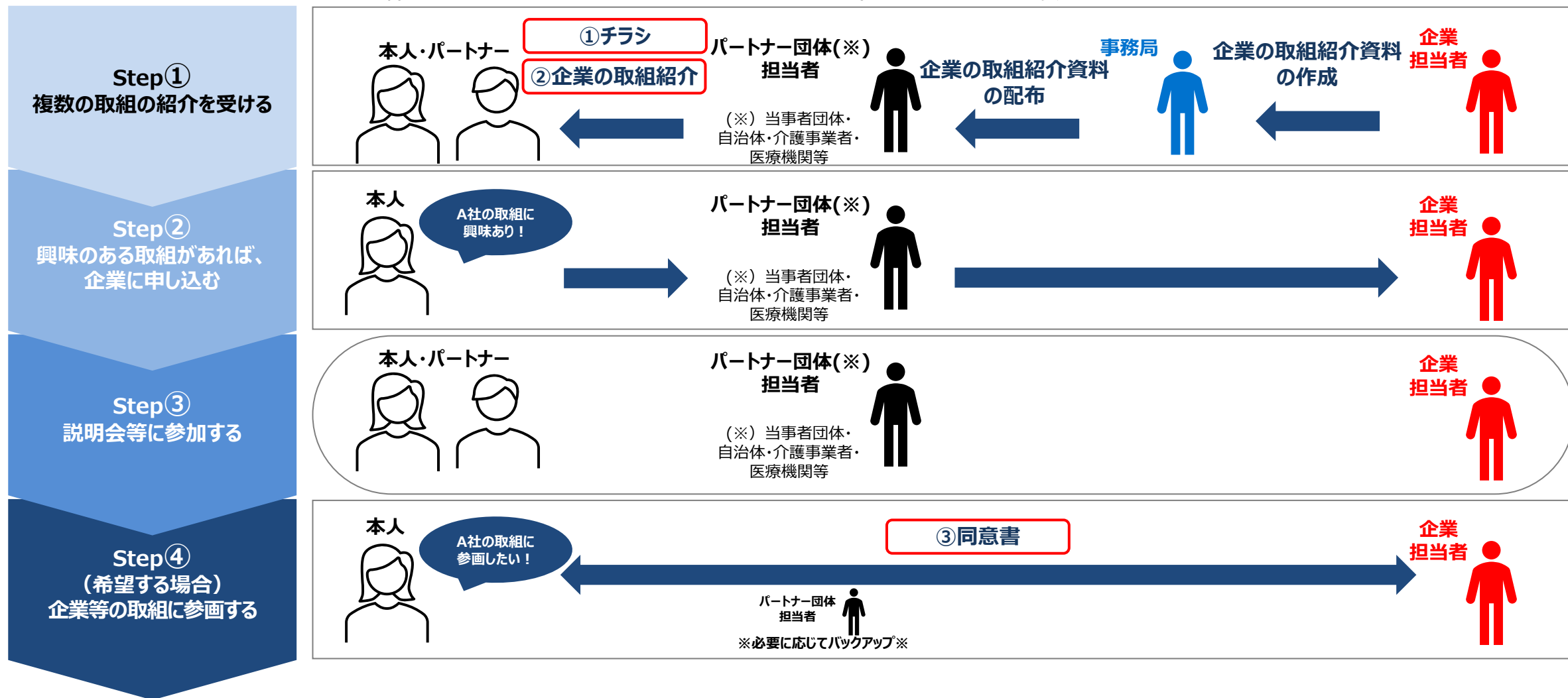
- ・ 実践企業からの希望を基に、認知症の人及び家族等を対象として広くニーズ調査を実施予定です。ただし、認知症の人との双方向のコミュニケーションによる当事者参画型開発の実践の情報を補完するものとして位置づけ、単なるアンケート調査はオレンジイノベーション・プロジェクトの趣旨とは異なるため、原則として認められません。

(※) なお、事務局にて設問内容等を整理のうえ、1つの調査に取りまとめて実施することを想定しており、調査設問や調査対象の割付等について、すべてのご希望には添えない可能性がありますので、ご留意ください。

【参考】参画いただく認知症の人の募集の流れ

- ・ パートナー団体経由で地域の認知症の人及び家族等にチラシと企業の取組紹介資料を配布。その後、パートナー団体経由で、希望者を紹介いただいている。

— 取組紹介の方法として、資料配布のほかに、オンラインもしくは対面で企業担当者から直接取組紹介をする場を設けることも検討中。



審査方法（1 / 2）

- 実践企業の選定にあたっては、提出書類をもとに、有識者等からなる審査会にて審査を行う。
- 審査基準は「本事業の趣旨との整合性」、「認知症の人の意思や希望の尊重」の2点を予定。

審査基準

<本事業趣旨との整合性>

- 提案製品・サービスの提供価値が「共生社会の実現」という本事業の趣旨に沿っているか
- 本事業における「当事者参画」、「開発」の定義や考え方に沿っているか

<認知症の人の意思や希望の尊重>

- 提案製品・サービスが認知症の人の課題・ニーズをとらえたもの、もしくはとらえていると想定されるものか
- 提案製品・サービスが認知症の人の生活課題の解決に資するもの、もしくは認知症の人の「やりたいこと」の実現に資するものであるか

【参考】

- 「**本事業趣旨との整合性**」が乏しいとみなされる可能性がある取組み（例）
 - ✓ 認知症の人を被験者として、エビデンス構築を主目的とする取組み
 - ✓ 予防に関する効果検証を主目的とする取組み 等※なお、認知症の予防等を目的とする製品・サービスであっても、認知症の人の意見等を基に、その製品・サービスのUI/UXを改善する等の観点での取組を想定されている場合には、本プロジェクトの対象としています。
- 「**認知症の人の意思や希望の尊重**」が乏しいとみなされる可能性がある取組み（例）
 - ✓ 認知症の人の意思や希望に反する（もしくは、意思や希望を確認しない状況で）参画を求める取組み
 - ✓ 家族等の参画のみを想定した取組み 等

審査方法（2 / 2）

- 審査にあたっては、必要に応じて、事務局からの内容照会及び審査委員会の場でヒアリングなどを行う場合がある。
- 対象となった企業等については、事務局よりご連絡予定。

＜審査に関する留意事項＞

- 審査委員会でのヒアリングの対象となった場合、オンラインでの取組紹介（5分）及び質疑応答（5分）をお願いします。
- 審査の結果は、当該企業に事務局より電子メールあるいは電話等にて通知いたします。
- 審査委員、審査内容等は非公開です。審査結果に関する問い合わせには応じかねますのでご了承ください。
- 厚生労働省「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」や認知症イノベーションアライアンスWG作成の「当事者参画型開発の手引き※」等を参考に認知症の人の意思決定を尊重し、開発への参画に際しては同意取得等を丁寧に行うことを原則とします。

※参考URL

厚生労働省「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」

[o_r6_guide02_20250320.pdf](#)

認知症イノベーションアライアンスWG「当事者参画型開発の手引き」

https://ninchisho-kanmin.ro.jp/dcms_media/other/経産省認知症WG.pdf

スケジュール

- ・ 応募から事業終了までのスケジュールは以下の通り。

<公募～採択>

- ・ 本公募開始後、応募があった企業等に対して、必要に応じて提案書内容への照会を行います。その後、審査委員会による審査を経て、応募があった企業等に対し審査結果を通知します。なお、必要に応じて、審査委員会の場でのヒアリングなどを行う場合もあります。
- ・ ヒアリング実施日は応募書類提出時にお知らせいたします。7月中旬を目途に、対象企業にのみ、具体的な時間帯等ご案内します。

令和8年6月1日～26日 : 公募 ※必要に応じて、内容照会を行います
令和8年7月中下旬頃 : 審査 ※必要に応じて、ヒアリングを行います
令和8年7月下旬頃 : 審査結果の通知（実践企業の採択決定）

<採択～事業完了>

- ・ 実践企業の決定後、採択企業向け説明会や事務局との初回面談を実施し、参画いただく認知症の人及び家族等とのマッチングを行います。
- ・ その後は、事務局と月1回程度進捗面談を実施し、年2回の実施報告（中間報告、最終報告）を行います。年度末には認知症イノベーションアライアンスWGにおいて報告を行います。なお、実施報告はオンラインでの実施を想定しており、参画した認知症の人及び家族等や関係者も聴講可能とすることを予定します。中間報告は進捗に応じ、開発中/予定の製品・サービスの紹介でもかまいません。

令和8年7月下旬 : 初回面談（オンライン）
令和8年8月初旬 : 採択企業向け説明会、座学研修および採択企業交流会（対面）
令和8年9月～令和9年2月 : 進捗面談（必要に応じて）
令和8年10～11月 : 中間報告
令和9年2月 : 最終報告
令和9年2～3月 : 認知症イノベーションアライアンスWGでの報告
令和9年3月 : 事業完了

応募資格（1 / 2）

- 本公募への応募要件は以下の通り。※次頁に続く

応募資格

- ① 日本国内に拠点を有していること。
- ② 当該事業期間中および当該事業終了後における事業の実施主体であること。
- ③ 法人格を有する民間事業者又は団体であり、地方公共団体や、法人格を有しない任意団体等（ただし、有限責任事業組合（LLP）を除く）ではないこと。
- ④ 認知症当事者参画型開発を的確に遂行する組織、人員等を有していること。
- ⑤ 当該事業を実施できる財政的健全性を有し、また資金について十分な管理能力を有していること。
- ⑥ 経済産業省からの補助金交付等停止措置又は指名停止措置が講じられている者ではないこと。

応募資格（2 / 2）

- ・ 前頁の続き。その他の応募にあたっての留意事項は公募要領をご参照ください。

応募資格

- ⑦ 事業の実施にあたり、以下の条件を満たすこと。
- ・ 認知症イノベーションアライアンスWGにおいて作成した「当事者参画型開発の手引き」の内容を理解し、遵守すること。特に、認知症の人及び家族等に当事者参画型開発の実践結果のフィードバックを行うこと。
 - ・ 事務局からの支援内容「③認知症及び認知症の人に関する学びの機会、交流の機会の提供」における、認知症の人と開発を行う際の留意点や心構え等に関する企業向けの講座・研修に出席すること。当日の参加が難しい場合、アーカイブ配信等を視聴すること。
 - ・ 認知症の人の家族等に向けた製品・サービスを開発する場合、家族等だけでなく、必ず認知症の人の意見を聞くこと。
 - ・ 取組の推進にあたって以下の理念を遵守すること。
 - ・ 認知症の人との出会いを楽しみながら、まずやってみる、「認知症」を一括りにしない
 - ・ 認知症の人の意思を尊重する、認知症の人と“チーム”として取り組む、認知症の人に明確に「伝える」・「伝わる」ことを意識する
 - ・ 参画する認知症の人及び家族等への謝礼を設定すること。なお、その際の謝金等は実践企業が負担すること。
 - ・ 例1) 製品の体験及び意見交換を実施（2時間程度）した場合、3,000円の金券をお渡しする。
 - ・ 例2) 本社に訪問し、製品の体験及び意見交換を実施（半日程度）した場合、実費交通費及び昼食代、製品サンプル（3,000円相当）をお渡しする。
 - ・ 例3) 検討中のバスツアー（1日）へ参加した場合、ツアー（15,000円相当）自体を謝礼とする。
 - ・ 例4) 検討中の新サービスに対する意見交換（2時間程度）を実施した場合、新サービスを通常より割安な価格で利用できるクーポン券（無料券や半額券等）を謝礼としてお渡しする。
 - ・ 令和8年度末に開催予定の認知症イノベーションアライアンスWGで成果報告が可能なこと。

応募方法

- 応募にあたり提出の必要なファイルは下記の通り。
 - ー 応募ファイルは、事務局のウェブサイトからダウンロード可能。
【ダウンロード先】https://www.jri.co.jp/seminar/260601_704/detail/

応募 ファイル

- ① 公募申請書（様式1：エクセルファイル）
- ② 提案書（様式2：パワーポイントファイル）

提出先

メールアドレス：200010-dcp@ml.jri.co.jp
株式会社日本総合研究所 高橋・内山・見上 宛

- 件名：【当事者参画型開発】実践企業応募（企業名）
- 提出ファイル：①公募申請書（※企業ロゴの別添は可） ②提案書
- 本文：企業名、担当者氏名・所属・連絡先（電話番号、メールアドレス）を記載

（注）上記メールアドレスの添付ファイルの受信上限容量は約7MBとなっています。
応募ファイルが7MB以上となる場合は、下記メールアドレスに提出してください。
株式会社日本総合研究所 内山宛 uchiyama.chikako@jri.co.jp

① 公募申請書（様式1：エクセルファイル）

様式1

経済産業省 令和8年度ヘルスケア産業基盤高度化推進事業（地域におけるヘルスケア産業推進事業）

オレンジイノベーション・プロジェクト 当事者参画型開発実践企業 公募申請書

※空欄がないことを確認のうえ、ご提出をお願いいたします（記載事項がない場合には「なし」と記載ください）。

企業概要	企業名	〇〇株式会社	
	企業HP URL	xxx//～	
	所在地	郵便番号	〒
		住所	〇〇
	設立年	〇〇	
	資本金	〇〇	
従業員数	〇〇		
提案における代表者概要	氏名	〇〇	
	所属	〇〇部××	
	役職	〇〇	
	連絡先	e-mail（宛先）	xxx@yyy1
		e-mail（CC）	xxx@yyy2
TEL		xxx-yyy-zzzz	
連携企業概要	連携企業	※複数企業・団体が連携して申請する場合は、企業名を記載ください。特段、連携しての申請を想定していない場合には、「なし」と記載ください。	
	連携企業HP URL	※複数企業・団体が連携して申請する場合は、企業名を記載ください。特段、連携しての申請を想定していない場合には、「なし」と記載ください。	
応募にあたっての必要事項	製品・サービスの分野	リストから選択してください（複数該当する場合は代表的な分野を一つ選択）。	
	製品・サービス名	※具体的な製品・サービス名がない場合、仮称で構いません。	
	開発・展開状況	リストから選択してください。	
	開発している製品・サービスの概要	※【参考】開発している製品・サービスの概要」シートを参照の上、記載ください。	
	本プロジェクト参画の目的	※本プロジェクトへの参加を通じて、何を明らかにしたいのか、またどのような開発・改善につなげたいのか等、本プロジェクト参画の目的を簡単に記載ください。	
	製品・サービスを共創する認知症の人の対象者像	※上記を踏まえ、どのような認知症の人とともに共創したいと考えているのか、記載ください。 例：〇〇の経験がある認知症の人、〇〇の課題感が強い認知症の人 等	
	ユーザー参加型開発の実践状況	※ユーザー（認知症の人以外も含む）と共に、製品・サービスの開発を行った経験がある場合は、その概要をご記載ください。経験がない場合は、「なし」と記載ください。 例1：身体障害ある方にプロトタイプの製品の体験・フィードバックをしてもらいながら、障害のある方の生活課題の解決に資する製品・サービスの開発を進めている。 例2：高齢者向け製品の改良にあたって、定期的に高齢者の声を聞く、座談会を開催している。	
応募動機	※本公募に応募した動機を記載ください。 例1：〇〇な製品・サービスを目指しており、そのプロトタイプを実際に認知症の人に利用していただき、どのような点に改善可能性があるのかについて意見を頂くため、応募した。 例2：製品・サービスのプロトタイプはないが、自社の技術をベースとした〇〇というアイデアがあり、認知症の人との意見交換を通じて、実際に認知症の人がもつニーズと合致するのを確認するため、応募した。		

応募にあたっての必要事項	製品・サービスの参考URL	※掲載サイトや説明動画等の該当がある場合には、そのURLを記載ください。特段ない場合には、「なし」と記載ください。
	企業ロゴ	※採択決定後、HPへ掲載するため、「本枠への添付」もしくは「jpg、.png形式にて別添として提出」ください。
	情報公開の可否	※HPや認知症イノベーションアライアンスWGにて公開予定の情報として、企業ロゴ・企業名・取組内容を想定しています。情報公開の可否をリストからして選択ください。なお、情報公開前には各社に内容を確認いただく予定です。
	情報公開範囲及び情報公開にあたっての留意点	※上記で、「否」又は「留意が必要」と回答した場合は、その詳細を記載ください。特段、懸念事項がない場合に、「なし」と記載ください。
	希望する支援内容 ※複数選択可	<input type="checkbox"/> ①認知症の人及び家族等の生活課題・未充足ニーズ等の調査機会の提供 <input type="checkbox"/> ②認知症の人及び家族等の紹介やマッチング、共創の実践の支援 <input type="checkbox"/> ③製品・サービスの展開に向けた流通・販売候補先等との交流機会の提供 <input type="checkbox"/> ④認知症及び認知症の人に関する学びの機会、交流の機会の提供 <input type="checkbox"/> ⑤自治体・団体等や企業同士、有識者等メンタリング企業とのネットワーク構築の支援 <input type="checkbox"/> ⑥経済産業省事業としての情報発信・プロモーションの支援

本事業への公募申請にあたっては、以下の条件を満たすことが必要となります。

ご確認いただき、条件を満たしている場合は各項目のチェックボックスにチェックをしてください。

認知症イノベーションアライアンスWGにおいて作成した「当事者参画型開発の手引き」の内容を理解し遵守すること。

特に、認知症の人及び家族等に当事者参画型開発の実践結果のフィードバックを行うこと。

参考URL：[経産省認知症WG_260116_低容量.pdf](#)

事務局からの支援内容④認知症及び認知症の人に関する学びの機会、交流の機会の提供における、認知症の人と開発を行う際の留意点や心構え等に関する企業向けの講座・研修に出席すること。当日の参加が難しい場合、アーカイブ配信等を視聴すること。

認知症の人の家族等に向けた製品・サービスを開発する場合、家族だけでなく、必ず認知症の本人の意見を聞くこと。

取組の推進にあたって以下の理念を遵守すること

・認知症の人との出会いを楽しみながら、まずやってみる

・「認知症」を一括りにしない

・認知症の人の意思を尊重する

・認知症の人と“チーム”として取り組む

・認知症の人に明確に「伝える」・「伝わる」ことを意識する

参画する認知症の人及び家族等への謝礼を設定すること。なお、その際の謝金等は実践企業が負担すること。

令和8年度末に開催予定の認知症イノベーションアライアンスWGで成果報告が可能なこと

②提案書（様式2：パワーポイントファイル）

- 提案書のフォーマットは縦型のパワーポイント2枚で構成されています。後述の作成時の留意事項・作成サンプルを参照の上、必要事項を記載し、提出をお願いしたい。
- 本フォーマットは、採択後に各企業の開発活動に参画する認知症の人及び家族等の募集を行う際にも使用する予定。採択決定後に必要に応じて、内容の変更等を行うことは可能。そのため、現時点での想定をご記載ください。

1枚目（表面）

~~~~~

~~~~~

どのような対象者に向けられているのか？(一文)
20~30文字程度/文字サイズ28P程度

~~~~~

~~~~~

どのような実践をするのか(一文)
20~30文字程度/文字サイズ18P程度

~~~~~

~~~~~

どのような実践をするのか？(詳細文章)
2~3行程度/文字サイズ16P程度

イラスト/写真

~~~~~特徴1(一文)  
10~20文字程度/文字サイズ18P程度  
~~~~~説明文1  
2行程度/文字サイズ16P程度

イラスト/写真

~~~~~特徴2(一文)  
10~20文字程度/文字サイズ18P程度  
~~~~~説明文2  
2行程度/文字サイズ16P程度

イラスト/写真

~~~~~特徴3(一文)  
10~20文字程度/文字サイズ18P程度  
~~~~~説明文3  
2行程度/文字サイズ16P程度

貴社が想定している対象者像（＝開発に参画いただきたい方の具体的なイメージ）、どのような取組をするのか、どのような製品・サービスを開発するのか/しているのか等を簡潔に記載してください。

2枚目（裏面）

~~~~~

■ ご協力いただきたい内容

■ お聞きしたい内容（例）

■ その他

■ 取組企業

■ みなさんと、こんな暮らしをかなえたい

写真

担当： ●●

問い合わせ先: xxxxxx@yy.com

企業/製品情報について、詳しくはこちらをご覧ください。  
<https://~~~~~>

※二次元コードを読み取れない場合は、検索エンジンで「●●」と検索ください。

二次元コード

開発に参画いただく認知症の人にご協力いただきたい内容、お聞きしたい内容、その他条件、企業概要等を簡潔に記載してください。

# 【参考】提案書の作成サンプル

## 1枚目（表面）

サンプル(表面) 服薬指導アプリ

### 定期的に通院し、 薬局でお薬を受け取られている方へ

「オンライン服薬指導アプリ」の体験会を実施します

私たちは薬局に行かなくても、アプリを通じて服薬指導を受けられるシステムを開発しています。  
皆さまのご感想をお聞かせください。

アプリの **3** つの特長

- **薬局での待ち時間ゼロ**  
予約の時間になったらアプリを起動するだけでご利用いただけます。
- **外出しないで服薬指導が受けられる**  
自宅からアプリで簡単に服薬指導を受けられます。  
外出する必要がないため、移動時間を節約できます！
- **お薬もご自宅で受け取れる**  
処方されたお薬は、ご自宅に直接お届けします。

3

## 2枚目（裏面）

サンプル(裏面) 服薬指導アプリ

### ■ ご協力いただきたい内容

- ① オンライン服薬指導アプリの体験**  
会場にお集まりいただき、アプリをご自身のスマートフォンにダウンロードし、実際にオンライン服薬指導を体験いただけます。
- ② 意見交換へのご協力**  
試作品のアプリを体験いただき、同日に意見交換にご協力いただけます。

### ■ お聞きたい内容（例）

- ・ 普段、病院で薬を処方されたときにどのように受け取っているか。
- ・ アプリを試してみて、使い勝手や見やすさはどうだったか。


### ■ その他

- ・ 平日の開催を想定しております。
- ・ 意見交換が終了後、〇〇円(交通費込み)をお支払いいたします。
- ・ ご家族も奮ってご参加ください。

### ■ 取組み企業

ハックオンザドア株式会社

### ■ みなさんと、こんな暮らしをかなえたい




「いつでもお家で薬を受け取れる」  
そんな暮らしをサポートできるサービスを  
皆様と一緒に創りたいと思っています。  
是非、ご協力ください！

担当：滝田

問い合わせ先：xxxxxxx@yy.com

企業/製品情報について、詳しくはこちらをご覧ください。  
<https://www.nanacara.jp/nana-medi/>

※二次元コードを読み取れない場合は、  
検索エンジンで「nana-medi」と検索ください。



6

## お問い合わせ先

応募にあたっての質疑応答は、以下のメールアドレスにて受け付けます。

**問合せ先：200010-dcp@ml.jri.co.jp**

**質問期限：令和8年6月17日（水）17：00**

- 件名：【当事者参画型開発】公募に関する質問（企業名）
- 本文：企業名、担当者氏名・所属・連絡先（電話番号、メールアドレス）を記載